

日本ケーブルラボ運用仕様 認定試験項目 (SPEC-038、STB 用)

JLabs SPEC-038 1.0版 第3世代STB用業界ACS技術仕様書

No.	テスト項目	内容
1.	初期設定	
1.1	STB初期接続	工場出荷時状態となっているSTBをACSシミュレータとホスト接続し、初期設定動作を行えること。
1.2	初期パラメータ設定	接続されているSTBを識別するためのパラメータを受信できること (Informメソッドで通知されてくるもの)。パラメータの値は、様式12で申告された通りであること。
1.3	初期設定時のファームウェア更新	ACSに接続した時点でファームウェアのバージョン確認を行い、最新でない場合、バージョンアップにより最新化する動作を行うこと。ただし、実行の可否は事業者によって選択できること。
1.4	誤設置防止機能	初期設定時にSTBからBOOTSTRAPではなく、以前の契約者情報を用いた、BOOT、PERIODICのアクセスが来た場合には、STBのMACアドレスとACSが格納する契約者情報が異なることを検知し、初期化指示を行う。(ACSシミュレータにホストに、誤設置をシミュレーションする情報を格納しておく)
1.5	即設置への対応	契約した当日にSTBを設置するケースを想定し、顧客管理システムに事前登録を必要とせず、即日サービスを利用開始できること。STBの手動設定等で対応可能なこと。
1.6	手動設置と、リトライによる自動設置完了	停電やネットワーク障害等により、STBがACSに接続できない場合でも、STBは手動設定等の手段により、設置可能であること。ACSへの接続復旧後は、手動操作を必要とせずに自動で初期設定が完了すること。
1.7	AM設定ファイルのダウンロード(初期設定時)	3.1と同様
2.	遠隔サポート	
2.1	STBのパラメータ取得・更新	STBのパラメータの取得・更新が可能であること。実装状況、期待値については、受験者からの申告による。(様式11、様式12による申告)
2.2	STBの本体設定値初期化	ACSシミュレータホストからの指示により、STB本体設定値の初期化ができること。
2.3	STBの端末再起動	ACSシミュレータホストからの指示により、リポート動作が実行されること。
2.4	RFログの取得	所定のパラメータを設定し、RFログが取得可能であることを確認。RFログファイルの形式は、受験者より「様式12」で申告
2.5	ファームウェア更新	ACSシミュレータホストからファームウェア更新操作を行い、STBにおいて実行されること。
3.	視聴情報収集	
3.1	視聴情報収集(準備)	視聴情報設定更新に用いるファイルをACSシミュレータホストに登録。受験者から視聴情報設定更新のファイルの提供が無い場合には、ラボがあらかじめ準備した雛形ファイルを使用。被試験機を指定して、視聴設定情報更新を行う。
3.2	視聴情報収集(確認)	視聴、録画予約、再生等のSTB操作を行い、その結果ACSシミュレータホストに得られるファイル内容を確認する。以下は、確認する要素・属性のグループ名称 AMReportPackage MeasurementReport DeviceInformation UserSettingInfo ChannelStart/StopEvent RecStart/Stop/FailureEvent SoredContentEvent DisplayStatus PowerOnEvent/PowerOffEvent RecSchedule RecScheduleMethod
4.	NAT超え	IPv4の場合は、ACSからSTBにアクセスする場合のリモートアクセス方法(NAT超え)を考慮すること。ラボ認定においては、STUN方式により試験を行う。